

2016 年度 6 月セミナー・議事録

「熊本地震と北陸」

1. 日 時： 2016 年 6 月 16 日（月） 18:00～20:10 参加者 18 人
2. 場 所： 富山県立大学環境工学科棟 I-333 地域協働支援室
3. 講演者： 京都大学名誉教授 川崎一朗 先生
4. 資 料： s-熊本富山比較本震小.jpg
5. 報告内容

(1) 熊本地震について

- ・ 地震のマグニチュードが大きいと、大きな震度の範囲が広がる。
- ・ 余震は主として布田川断層北側でおこった。現在では大幅に減ったが、微小な余震は現在も発生している。
- ・ 益城町役場近くの KiK-net 観測点の地表の加速度の最大振幅は 1000 ガル前後であった。深さほぼ 250m の地下観測点では 200 ガル前後で、厚さほぼ 230m の表層（火山堆積物）ではほぼ 4 倍に増幅した。
- ・ 益城観測点の地盤は KiK-net の阿蘇観測点や豊野観測点より良いにもかかわらず、他の場所より甚大な被害が出た。その原因は、布田川断層の分岐断層が益城町まで延びてきたことと、火山堆積物の表層によるレゾナンスが原因と思われる。今後の研究が待たれる。

(2) 富山について

- ・ 熊本地震と同じような規模の地震が呉羽山断層で発生すると、被害は熊本地震よりもはるかに甚大になると考えられる。呉西の被害地は、高岡市全域に及ぶと考えられる。
- ・ 呉東においては、赤十字病院、富山大学附属病院、富山大学、日本海ガスの岩瀬工場が呉羽山断層上に位置していることが問題。移転も含めて、30 年計画、50 年計画などの長期的視点で配置計画を考えるべき。
- ・ 地震に備えてすべき対策の基本は、①ライフラインの迅速な更新、②断層線近くの下盤は 2km 以内、上盤は 5km 以内の耐震診断・耐震補強の徹底などであろう。

【資 料】 s-熊本富山比較本震小.jpg

